

令和4年度 アットマーク国際高等学校学校評価について

●根拠法令

構造改革特別区域法12条5項

特区の認定を受けた地方公共団体は学校設置会社の設置する学校の教育、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、

毎年度、評価を行わなければならない。

評価項目	評価における観点	評価コメント
教育活動について	教育課程	<ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育がなされるとともに、一人ひとりの「学ぶ目的」の実現に向けた努力がなされており、今後も継続することを求める。 教育課程については、生徒・地域のニーズに応え、必要に応じて内容の精査及び見直しを行い、柔軟に対応していくことを求める。
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 通信制課程の特色を生かした「探究活動」の取り組みを推進しているなかで、今年度はテーマとして「地域」と「観光」を取り上げられた。 まず7月31日に美川を舞台に「お絵描きラン」と銘打って、GPSで美川の街中を走り、地図上にフグのイラストを描く企画を実施した。 学校以外の一般の参加もあり、美川を知ってもらえる良い機会となる企画であった。 また、8月には美川商工会と共同で「サマースクール」を企画して美川仏壇やふぐの粕漬の工場見学をして、最終日の発表会では美川の観光や物産をどのように発信すれば良いか班ごとに取り組みを発表し、その内容は美川商工会でも高く評価された。 11月にはアットマークフェス(アトマフェス)を開催し、美川の店舗紹介の小冊子の作成や、「美川かるた」をつくり小さな子にもわかりやすく美川の文化伝える工夫など成果を発表し、フェス参加者から高い評価をいただいた。 進路指導において、毎年、有名大学の合格者を輩出している実績は評価できる。今後も生徒の学習意欲向上のため、個別の進路指導をより充実させ、生徒個々の個性を伸ばす指導を求める。 新型コロナウイルス感染の続く中で、インターネット通信制高校の強みを生かした「オンライン登校」に力を入れ、受け身になりがちな生徒に対し主体的な学びの姿勢を強化し、他社との交流を促すための「オンラインホームルーム」を充実させ、家に閉じこもりがちな生徒に対し、仲間との一体感の醸成と継続のモチベーションを維持する工夫を実践したことは高く評価できる。
	面接の指導	<ul style="list-style-type: none"> アットマーク国際高等学校には、様々な事情により問題を抱えた生徒がいるため、指導にあたっては注意が必要である。アットマーク国際高等学校のこれまでの実績とともに、姉妹校の明蓬館高校の「SNEC」「STEC」の各地での開設に伴う、蓄積されたknow-howが「訳あって不登校」市場から発達障害や学習障害、また引きこもりの生徒に対応した面接指導に生かされていることを高く評価する。 各生徒の能力・個性に応じた指導を展開し、傾聴と承認に一層努めて欲しい。 今年のように、美川地域の観光、産業を十分に活用することは良いことである。「白山手取川ジオパーク」を活用すると同時に、身近な地域とのつながりを築くことも求めるべきである。山岳地域から海洋までの「ジオ(大地、地球)」という大きな自然環境、そして地域文化に触れながら「サマースクール」のような地域の住民とのコミュニケーションを取りながら自分たちで考えた課題に取り組み、成果を地域に発表するという学習は、充実した学校生活を広くアピールできると思う。 広域通信制高校として、生徒の健康管理については難しいことであるがスクーリング時等での健康診断を通じて、健康の管理に努めていることは重要なことである。
学校設置会社の経営状況	学校経営の安定性・組織及び管理運営	<ul style="list-style-type: none"> 財務状況は改善の方向であるが、引き続き経営努力が必要であり、継続的・安定的な学校運営に努めることを求める。 生徒数は着実に増加しているが、今後も生徒をいかに確保するかが課題である。長野県のサポート校では松本市、塩尻市からの生徒が増えており、福島県伊達市、茨城県土浦市のサポート校では順調な教育活動により、年度途中の転入生の増加している。 個人情報については取扱いに十分注意し、厳重に管理することを求める。 学校の安全については、日々点検を怠ることのないよう注意し、不測の事態が生じても対処できる体制の確立及び教職員の教育を進めていくことを望む。 新型コロナウイルス感染拡大の状況下における対策を徹底すること。
	施設及び設備	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの通学における交通アクセス及び他の教育機関との連携も考慮したうえで、白山市内における施設等の充実を検討することを求める。夏期・冬期のスクーリングやイベントについても、白山市内の既存施設や地域住民とのコミュニケーションをとりながら、白山市に足場を固めてより一層の取り組みを求める。